

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和3年5月末	令和3年8月末	令和3年11月見通し	令和4年2月見通し
+67千トン 〔 1973千トン〕 (103.5%)	+25千トン 〔 1998千トン 〕 (101.3%)	+46千トン 〔 2044千トン〕 (102.3%)	-85千トン 〔 1959千トン〕 (95.8%)
1946千トン(98.6)	1956千トン(97.9)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和3年6月末	令和3年9月末	令和3年12月見通し	令和4年3月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は102,700円。前期比+10,400円。荷動き好転の兆しもなく、出庫低迷したままだったが、流通は慎重な仕入姿勢を持続したため在庫増にはならなかった。市況も粛々と価格転嫁が進み平均市況が三桁の数字となった。先高感があるため先行手配も散見された。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は115,700円。前期比+13,000円。大型物件は見受けられたものの中小建築案件は思ったほど出なかった。加工は小口中心だが増加。流通が慎重な仕入をしていることから在庫は増えなかった。メーカー値上げの転嫁を徐々に進めたが、採算まで届かず。コラムと軽量C形鋼だけは極端にタイトな状況であった。	秋需が伸び悩んだ需要期となった。建築について大型物件は順調ながら、中小物件は相変わらず低調。12月に入り荷動きが悪くなっている。流通は需要見合いの仕入をしているため過剰感はない。スクラップ価格は弱含みだが高炉、電炉ともメーカーは強気姿勢を崩していない。条鋼品種は価格転嫁が遅れており道半ばである。製造業関連では建産機は好調、自動車の減産から薄板在庫は増加しているが12月以降、増産の見通しで在庫は減少するだろう。	大型物件について物流倉庫、データセンター以外にも事務所、工場、倉庫等の案件も出てきており、昨年より良くなると期待。中小案件は1~2月は低調のまま推移すると思われるが、3月頃から中小物件も出始めてくると予想され、条鋼品種に多少タイト感が出てくると思われる。建産機は堅調に推移し自動車は計画通り増産が行われれば在庫はタイトになる見通しだが、一方で半導体や部品不足が続くという不安要素も出ている。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

10月の仕入量は167,037トン前月比+9.0%、前年同月比-3.7%、販売量は164,445トン前月比+4.7%、前年同月比-5.8%。仕入量、販売量ともに前月比増加、前年同月比減少しました。在庫量は205,146トン前月比+1.3%、前年同月比+0.1%、在庫量は前月比増加、前年同月比微増。在庫率は124.8ポイントと下降しました。秋需は感じられず、特に中小物件の回復が遅れており苦戦しています。土木の引合いは徐々に増えてきています。市況についてメーカー値上げに追い付かず価格転嫁は道半ばの状況です。流通は需要見合いの仕入をしていることから在庫はほぼ横ばいで推移している。

4. 大阪の動向

10月、11月の荷動きは、秋の需要期とすれば物足りなさもあるが通常月よりは増加傾向。12月は実質稼働日が少ない事もあり、出荷はマイナス予想。全体的に建産機は好調。建築は大型案件が順調ながら中小案件はやや低調。市況は、スクラップが少し弱含みも大きな下がり無く、メーカーの強基調は継続。流通もメーカー値上げ分の価格転嫁に注力しており、確実に上値は切り上がるも、まだ価格転嫁が終了しておらず、今後も上げ基調が続く。1~3月は秋の需要期の反動と稼働日が減少する事から例年マイナス傾向。ただ今期は、秋需の盛り上がりは少なかつた分、落ち込みも少ないのではと予想。建産機は引き続き好調が予想され、課題の中小案件も3月頃から出てくるとの予想が多く、期待したい。